



昭和第一高等学校

ん。「落ちたらどうしよう」という不安に常にとらわれて学習しても、心理的距離は延びてしまい、その結果、本人の持っている能力すら発揮できなくなってしまう。心理的距離と学力の距離の相関関係は深いのですが、イコールではないのです。これを踏まえ、本校では受験指導する際に学力の距離主導型よりも心理的距離主導型のほうが効果的だと考え、指導を行います。

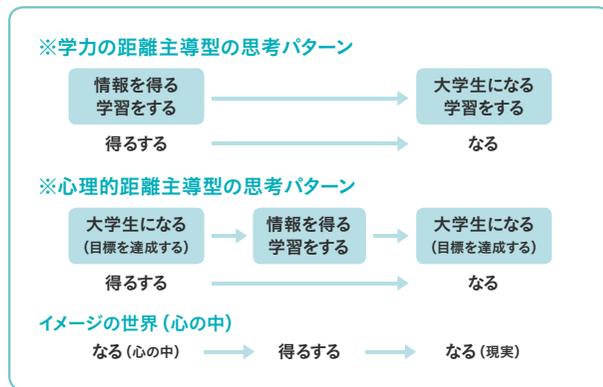
また、本校の特長として、各教科の職員室を設けていないことが挙げられます。体育教官室などありません。ゆえに、全教科の教員は常に同じ職員室にいます。そこではおのずと教員同士がコミュニケーション

ケーションをとり、会話をする機会が増えてきます。これは社会人として必要な「報告・連絡・相談」をしやすいい環境へと導いていってくれます。密な連絡を教員同士が取り合っていることで、保護者や生徒に対しても効果的に指導ができる一つの要因だと感じています。

私は現在、一年生の特進クラスの担任をしています。特進クラスは必然的に進路に対する明確な結果が求められていると感じます。しかし、教員が結果ばかりにこだわり、勉強、勉強とプレッシャーをかけ続けると、生徒は息切れをしてしまうことが多く、受験から気持ちが離れていってしまうと考えています。すなわち心理的距離を遠ざけてしまうこととなります。そこで、私はまず「勉強をする」ではなく「大学生になる」ことを意識付けます。そして、大学生になるためにはどうしたらいいのかを考えさせ、「勉強すれば大学生になれる」という心理状態にします。このように、大学生になる（イメージ）↓学習をする↓大学生になる（現実）とすることにより、心理的距離主導型で進路指導を行っています。また、生徒の気持ちを受験から離さないようにするために、「生徒を引きつけ、教科に興味を持たせる授業」を行うことを心掛け

ています。私は明治大学で現象数理学を研究していました。社会的問題、社会現象を数学を用いて説明していくものです。この話を生徒に話すと、「数学は社会に出て使うんだ」と興味、関心を示してくれるのです。

このように受験（目標）に対する心理的距離を重要視することでモチベーションを高め、一人でも多くの生徒が希望の大学に合格できるように、日々生徒と向き合っています。



三つの距離 思考パターンの違い

学校教育の現場から



山口 誠 MAKOTO YAMAGUCHI



昭和第一高等学校教諭
数学科

1985年生まれ 東京都出身
2009年3月 明治大学理工学部数学科 卒業
2009年4月 昭和第一高等学校 赴任

私は文京区にありますが昭和第一高等学校に勤めています。水道橋駅より徒歩三分という立地にありながらも、趣があり、どこか懐かしさを感じる校舎は、保護者の方々にもご好評を頂いています。昭和四年に男子のみの商業学校としてスタートし、現在は普通科のみの男女共学の学校になりました。「明るく、強く、正しく」を校訓にし、国際社会で活躍出来る心身ともに調和のとれた紳士・淑女の育成を目指しています。具体的には本校独自のマナー教育として「Beauty and Good Manners」という授業があります。一年次にはテーブルマナー教室や制服の着こなしセミナー、二年次には有田焼の絵付けや着物の着付け教室、三年次には宝塚観劇などの授業をし、卒業式には全員がコサージュを創作し、それを胸につけ式を行います。式後には感謝の気持ちを込めて保護者にプレゼントします。このような授業を通し、紳士・淑女の教育を実践しています。

進路指導に関しては、「三つの距離」という一つの概念を持っています。三つの

距離とは時間の距離、学力の距離、心理的距離のことです。時間の距離とは説明するまでもなく進路決定までの期間のことです。学力の距離とは希望する学校に対しての位置づけを見るもので、偏差値と呼ばれるものです。最後に心理的距離とは目標達成に対する確信の度合いを表すものです。「受かるのだろうか」↓「もしかしたら受かるだろう」↓「多分、受かる」、学習が進むにつれこのように、合格に対する確信の度合いが変化するのであれば、心理的距離は縮まっていることとなります。しかし、学習すれば必ずしも心理的距離は縮まるものではありません



卒業生が創作したコサージュ

「生徒の心を考えた進路指導」